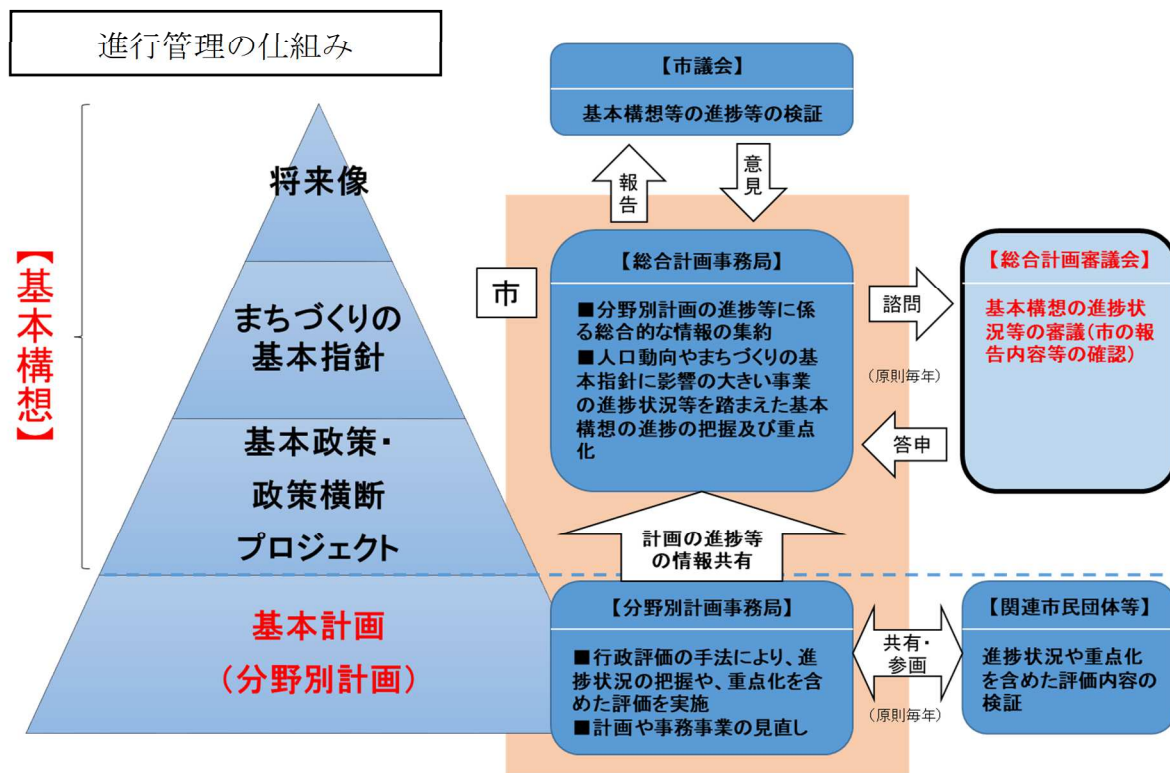


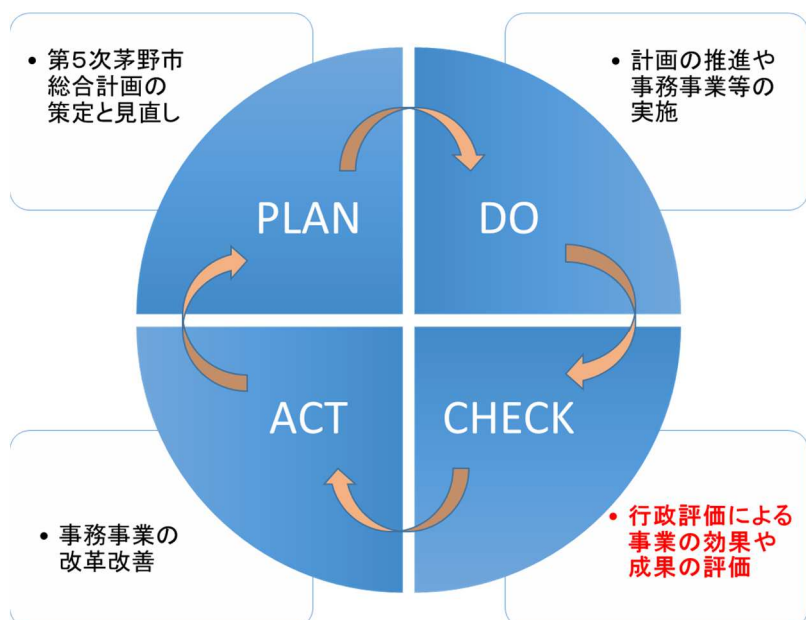
第5次茅野市総合計画の進捗状況等について

1 総合計画の進行管理

- 第5次総合計画は、まちづくりの大きな方向を示す基本構想と基本構想を推進するため基本計画の2つで構成
- 基本構想に位置付けた7つの柱ごとに全体で33の分野別計画を基本計画に位置づけ、総合計画を推進



※ 計画の進行管理にあたっては、分野別計画で掲げた数値目標の達成状況などを把握し、これまでの取組の検証や課題の整理（CHECK）を行い、計画の見直し等（ACTION）につなげています



2 総合計画の進捗状況（CHECK）

（1）基本計画（分野別計画）

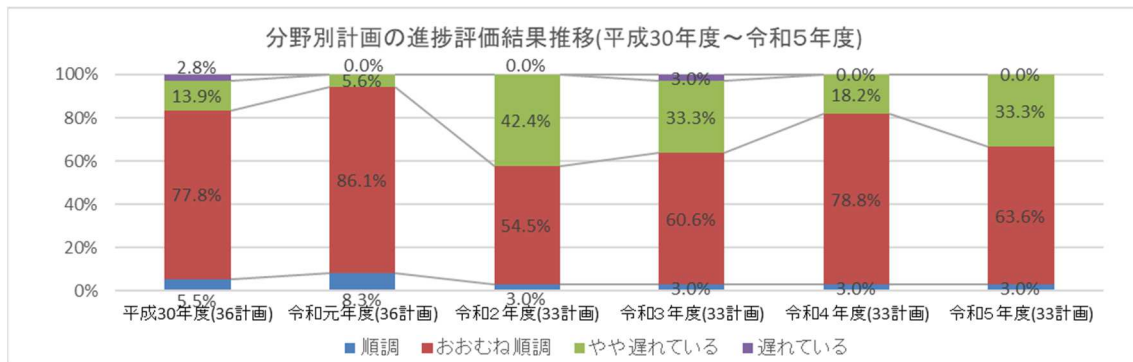
分野別計画で掲げた数値目標の達成状況などを把握し、「順調」、「おおむね順調」、「やや遅れている」、「遅れている」の4段階で進捗状況の評価しました。

分野別計画		最終 進捗評価	分野別計画		最終 進捗評価
保健・医療・福祉	地域福祉計画	おおむね順調	都市基盤	道路河川等整備計画	おおむね順調
	高齢者保健福祉計画	おおむね順調		茅野駅周辺地区バリアフリー基本構想	やや遅れている
	障害者保健福祉計画	おおむね順調		住生活基本計画	おおむね順調
	健康づくり計画	やや遅れている		水道ビジョン	おおむね順調
	食育推進計画	おおむね順調		下水道中期ビジョン	やや遅れている
子育て・教育・文化	こども・家庭応援計画	おおむね順調	行政経営	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	おおむね順調
	社会教育推進計画	おおむね順調		行政経営基本計画	やや遅れている
	こども読書活動推進計画	おおむね順調		公共施設等総合管理計画	やや遅れている
	文化芸術推進計画	やや遅れている	政策横断プロジェクト	男女共同参画計画	おおむね順調
	縄文の里史跡整備・活用基本計画	おおむね順調		地域防災計画	おおむね順調
	スポーツ推進計画	やや遅れている		縄文プロジェクト	やや遅れている
環境	環境基本計画	やや遅れている		多文化共生・国際交流推進計画	おおむね順調
	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画	やや遅れている		ICT活用戦略	おおむね順調
産業経済	農業振興ビジョン	おおむね順調			
	林業振興ビジョン	やや遅れている			
	商業振興ビジョン	おおむね順調			
	工業振興ビジョン	おおむね順調			
	観光振興ビジョン	おおむね順調			
	建設産業振興ビジョン	順調			
	産業振興ビジョン	おおむね順調			

計画期間終了時点（令和5年度末時点）では、33計画のうち1計画（3.0%）が「順調」、21計画（63.6%）が「おおむね順調」、11計画（33.3%）が「やや遅れている」との進捗評価結果となっている。

令和4年度末時点と比較すると、「おおむね順調」という進捗評価結果であった計画の数が減少しているものの、令和5年度末時点における進捗評価は、あくまで平成30年度から令和5年度までの6年間の総括評価であり、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた数年間が含まれる計画期間を総括したものであるために、単年度評価である令和4年度までとは単純に比較できない難しさもある。

(参考) 平成 30 年度から令和 5 年度までの分野別計画の進捗評価結果推移



※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100 にならない場合があります。

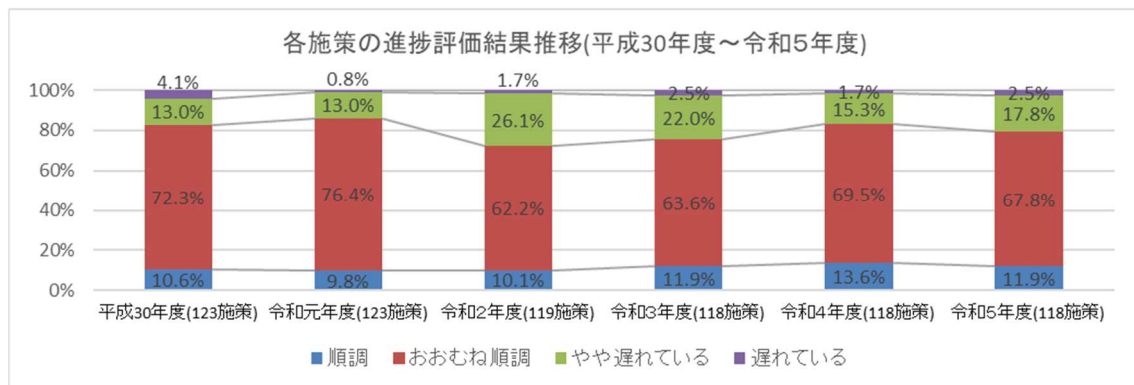
進捗評価を行った分野別計画における各施策の進捗状況は、次のとおりです。

分野別計画		施策 の数	順調	おおむね 順調	(順調、おおむ ね順調の割 合)	やや遅れ ている	遅れてい る	(やや遅れてい る、遅れてい るの割合)
保健・ 医療・ 福祉	地域福祉計画	4	0	4	100.0	0	0	0.0
	高齢者保健福祉計画	5	0	5	100.0	0	0	0.0
	障害者保健福祉計画	2	0	2	100.0	0	0	0.0
	健康づくり計画	5	1	1	40.0	3	0	60.0
	食育推進計画	3	0	3	100.0	0	0	0.0
保健・医療・福祉		19	1	15	84.2	3	0	15.8
子育て・ 教育・ 文化	こども・家庭応援計画	12	1	9	83.3	2	0	16.7
	社会教育推進計画	6	1	5	100.0	0	0	0.0
	こども読書活動推進計画	2	0	2	100.0	0	0	0.0
	文化芸術推進計画	4	0	2	50.0	2	0	50.0
	縄文の里史跡整備・活用基本計画	4	1	3	100.0	0	0	0.0
	スポーツ推進計画	5	0	1	20.0	3	1	80.0
子育て・教育・文化		33	3	22	75.8	7	1	24.2
環境	環境基本計画	5	1	2	60.0	1	1	40.0
	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画	3	0	1	33.3	1	1	66.7
環境		8	1	3	50.0	2	2	50.0
産業経済	農業振興ビジョン	3	2	1	100.0	0	0	0.0
	林業振興ビジョン	3	0	2	66.7	1	0	33.3
	商業振興ビジョン	2	0	2	100.0	0	0	0.0
	工業振興ビジョン	4	3	1	100.0	0	0	0.0
	観光振興ビジョン	4	0	3	75.0	1	0	25.0
	建設産業振興ビジョン	3	3	0	100.0	0	0	0.0
	産業振興ビジョン	1	0	1	100.0	0	0	0.0
産業経済		20	8	10	90.0	2	0	10.0
都市基盤	道路河川等整備計画	5	0	5	100.0	0	0	0.0
	茅野駅周辺地区バリアフリー基本構想	1	0	0	0.0	1	0	100.0
	住生活基本計画	4	1	3	100.0	0	0	0.0
	水道ビジョン	3	0	3	100.0	0	0	0.0
	下水道中期ビジョン	3	0	2	66.7	1	0	33.3
	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	1	0	1	100.0	0	0	0.0
都市基盤		17	1	14	88.2	2	0	11.8
行政経営	行政経営基本計画	4	0	1	25.0	3	0	75.0
	公共施設等総合管理計画	3	0	2	66.7	1	0	33.3
	男女共同参画計画	4	0	4	100.0	0	0	0.0
行政経営		11	0	7	63.6	4	0	36.4
政策横断プロジェクト	地域防災計画	2	0	2	100.0	0	0	0.0
	縄文プロジェクト	1	0	0	0.0	1	0	100.0
	多文化共生・国際交流推進計画	3	0	3	100.0	0	0	0.0
	ICT活用戦略	4	0	4	100.0	0	0	0.0
合計		118	14	80	79.7	21	3	20.3

計画期間終了時点(令和5年度末時点)では、118施策のうち14施策(11.9%)が「順調」、80施策(67.8%)が「おおむね順調」、21施策(17.8%)が「やや遅れている」、3施策(2.5%)が「遅れている」との進捗評価結果であり、令和4年度末時点と同程度の水準となっている。

平成 30 年度から令和 5 年度までの 6 年間においては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた期間が含まれるため、最終的に新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の平成 30 年度や令和元年度の進捗評価に近い水準までには、改善が及ばなかった。

(参考) 平成 30 年度から令和 5 年度までの各施策の進捗評価結果推移



※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100 にならない場合があります。

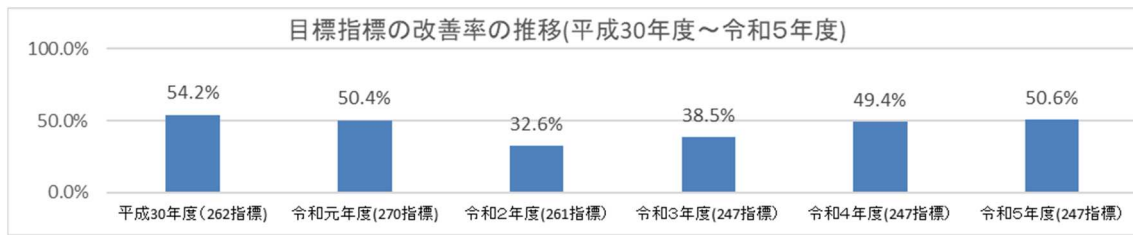
分野別計画の施策ごとに設定した目標指標について、計画策定時から改善が見られた施策数は、次のとおりです。

分野別計画		施策の目標指標の数	うち改善指標数	改善率
保険・医療・福祉	地域福祉計画	3	2	66.7
	高齢者保健福祉計画	7	1	14.3
	障害者保健福祉計画	4	3	75.0
	健康づくり計画	12	9	75.0
	食育推進計画	15	13	86.7
保健・医療・福祉		41	28	68.3
子育て・教育・文化	こども・家庭応援計画	24	9	37.5
	社会教育推進計画	14	4	28.6
	こども読書活動推進計画	4	2	50.0
	文化芸術推進計画	8	0	0.0
	縄文の里史跡整備・活用基本計画	8	3	37.5
	スポーツ推進計画	10	2	20.0
子育て・教育・文化		68	20	29.4
環境	環境基本計画	15	9	60.0
	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画	5	3	60.0
環境		20	12	60.0
産業経済	農業振興ビジョン	6	5	83.3
	林業振興ビジョン	4	0	0.0
	商業振興ビジョン	5	5	100.0
	工業振興ビジョン	9	4	44.4
	観光振興ビジョン	9	9	100.0
	建設産業振興ビジョン	5	4	80.0
	産業振興ビジョン	3	2	66.7
産業経済		41	29	70.7
都市基盤	道路河川等整備計画	10	5	50.0
	茅野駅周辺地区バリアフリー基本構想	2	1	50.0
	住生活基本計画	9	4	44.4
	水道ビジョン	8	4	50.0
	下水道中期ビジョン	6	4	66.7
	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	2	0	0.0
都市基盤		37	18	48.6
行政経営	行政経営基本計画	8	3	37.5
	公共施設等総合管理計画	3	1	33.3
	男女共同参画計画	10	2	20.0
行政経営		21	6	28.6
政策横断プロジェクト	地域防災計画	3	1	33.3
	縄文プロジェクト	3	1	33.3
	多文化共生・国際交流推進計画	5	3	60.0
	ICT活用戦略	8	8	100.0
合計		247	126	51.0

計画期間終了時点(令和5年度末時点)では、247の指標のうち126指標(51.0%)において、計画策定時から改善が見られる結果となった。令和4年度末時点の改善率(49.4%)から上昇している点については、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、様々な事業が本格的に再開されたことが主な要因であると考えられる。

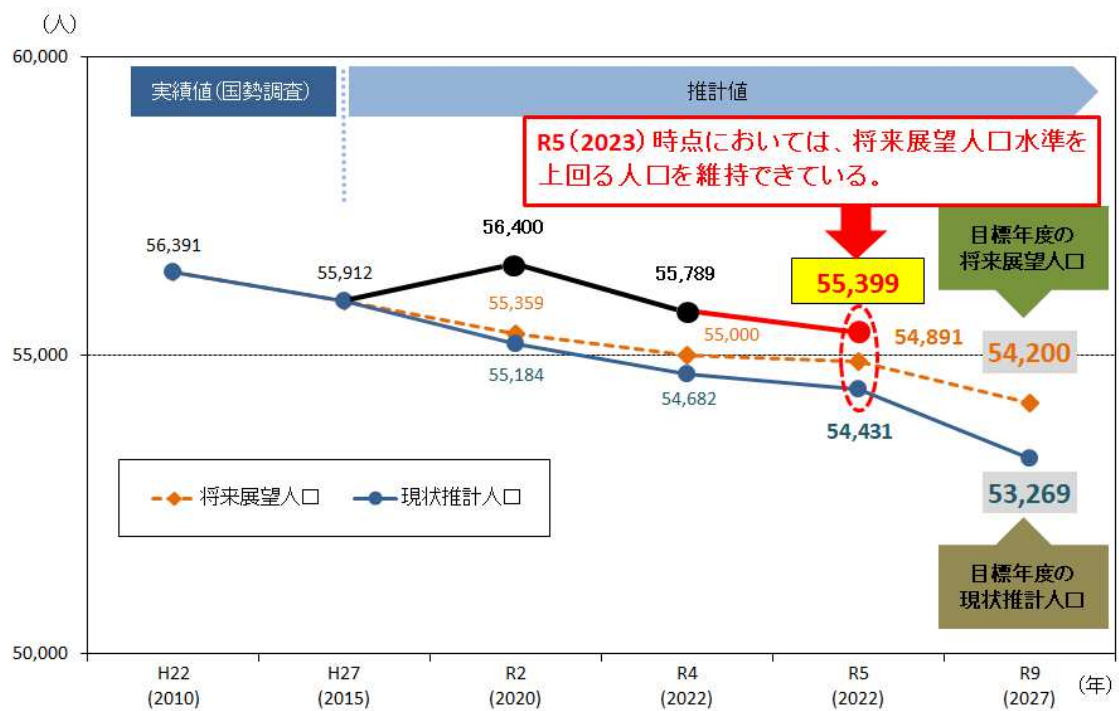
平成30年度から令和5年度までの6年間においては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた期間が含まれるものの、最終的には新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の水準までに改善率が回復してきている。

(参考) 平成30年度から令和5年度までの目標指標の改善率の推移



(2) 基本構想

基本構想で掲げている将来展望人口とこれまでの実際の人口動向、基本計画の進捗状況等を総合的に勘案し、4段階のうち「おおむね順調」としました。



現状推計人口

国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計人口。

将来展望人口

出生率の向上や転入者の増加など、総合計画の推進によって様々な人口減少対策の政策効果を見込んだ推計人口。

3 今後に向けて（ACTIONからPLANへ）

（1）現状と課題

第5次茅野市総合計画の計画期間6年（平成30年度から令和5年度まで）の間に、新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、人々の暮らしに変革をもたらし、ロシアのウクライナ侵攻は、日本経済に大きなインパクトを与えました。一方で、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsや脱炭素化などが世界共通の課題として注目されるようになり、国や県は、こうした世界規模の動きを捉え、ゼロカーボン、DXなどをテーマに新たな取組をスタートしました。

このように、第5次茅野市総合計画策定時の想定を超えるレベルで茅野市を取り巻く環境が大きく変化する中、人口減少・少子高齢化も着実に進展しており、今後、茅野市が直面し、解決を求められる課題は、これまで以上に複雑多岐に渡ることが予想されます。

こうした局面においても、茅野市は、これまでのまちづくりの仕組みを見直す行財政改革の推進や新たなまちづくりの手段であるDXの活用と、新たな価値観であるGXの共有などを着実に進めてきました。

その結果、コロナ禍においては、基本計画の進捗に遅れが見られたものの、ポストコロナにおいては、多くの基本計画が着実に進捗の遅れを取り戻し、総合計画全体の成果指標である将来展望人口の目標値を6年間連続で上回ることができました。

しかし、今後のまちづくりにおいては、以下の課題解決が求められます。

① 人と人とのつながりの希薄化、地域を支える人材の不足

コロナ禍や少子化により、人と人とのつながりが希薄化し、地域の担い手や各産業における後継者の不足が顕在化しています。

→より少ない人数、より軽い負担で、効率的にまちづくりを進めることができるような新たな公民協働の仕組の再構築が必要です。

② 地域経済の縮小

物価高騰などの世界規模の経済情勢の変化が市民生活に直接的に影響を及ぼし、コロナ禍が観光業、飲食業などの地域産業に深刻な打撃を与えました。

→地域の担い手確保と地域経済の活性化の両方を見据えた取組が必要です。

③ 多発化する自然災害と被害の激甚化

異常気象や茅野市の地理的特性が相まって、市内で発生する自然災害の多発化、被害も激甚化の傾向、大地震の発生も予測されています。

→災害発生を見据えた地域の連携、協力体制づくりと、災害発生時に安全・安心に利用できる社会インフラの維持管理・更新などが必要です。

④ 市財政の硬直化

社会保障費や公共施設の維持管理費などの増大により、新たな投資への財源確保が困難な状況です。

→これまでのまちづくりの仕組みや行政経営を見直し、再構築し、未来への投資に振り向ける方策が必要です。

(2) まちづくりの方向性

今後も、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢への確に対応し、茅野市の強みを活かしながら、新たな手段や価値観を取り入れ、前述の課題を解決しながら、持続可能なまちの実現を目指すまちづくりの指針として、現在、第6次総合計画の策定を進めています。

この総合計画では、茅野市に身を置く人、一人ひとりの力にフォーカスしています。SDGsやゼロカーボンなど世界共通の目標達成や、人口減少・超高齢化が進展し、担い手が不足する地域コミュニティを維持するためには、こうした課題に対する一人ひとりの意識や行動が大変重要になります。その意識や行動を喚起することによって人の力を最大化するためには、人に前向きさや、人のために何かしようなどの気持ちを生み出してくれる「幸福感」が何より大事です。このため、まちづくりの普遍的なテーマに「幸せを実現できるまち」を据えています。

また、5年間で目指すまちの将来像に掲げている「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」の実現に向けて、「交流」を原動力に、「幸福感」で最大化された人の力をつなぎ、大きなまちの力にするとともに、「交流」の基盤となるまちの「たくましさ」、「やさしさ」、「しなやかさ」にさらに磨きをかけ、新しい時代に対応した「幸せを実現できるまち」の創造を目指します。

これからのまちづくりにおいては、未来にわたって茅野市が安全に安心して、便利で快適に暮らせるまちであり続けるため、人口減少のスピードや波及するインパクトを「緩和」しつつ、未来につなげるために「適応」した社会システムを構築していくイメージを持ちながら、様々な取組を進める姿勢が求められると考えます。

第6次総合計画に掲げる目的や目標の達成に向けて、これまで長い時間を掛けて構築されたまちづくりや行政内部の仕組みを見直し、本当に必要なことを見極め、時代に対応した形に変えていく必要があります、それは容易ではありません。

そして、それを力強く推進するためには、目的や目標を同じくし、その達成に向けて、それぞれの立場や多様な考え方を尊重し、意見交換をしながら前向きな話し合いを行って相互理解を深める「対話」と、その結果を自分事として捉え、関わる人それぞれの強みを活かしながら手を出し、力を合わせて、目的や目標の達成に向けた取組を実践する「協調」を意識する必要があります。

上記の考え方を基軸とし、第6次総合計画に掲げる目的や目標の達成に向けて、次の3つの柱を重点施策に位置付け、市民と行政が一体となってまちづくりを進めていきます。

① 「交流拠点CHINO」の構築

- ・ 若者に加え、女性からも選ばれるまちを目指し、半導体やITなどの成長分野の企業を市内に誘致し雇用を生み出したり、スタートアップを支援するなどして、若者や女性に魅力のある産業やビジネス、働き方を創出し、市内外の人や企業を呼び込み、市内の人や企業との交流を促す仕組みづくりを行います。
- ・ 中心市街地、蓼科湖、白樺湖を市内における交流の3つの拠点に位置付け、公民連携により賑わいを創出する取組を行います。
- ・ 市内各所へ自由に移動ができる、安心・快適な地域公共交通網を構築し、経済活動や社会参画のきっかけづくりを行います。
- ・ 保健・医療・福祉、子育て・教育、防災などを切り口に、人口減少・超高齢化においても機能する協働（行政と市民、市民と市民）の新たな仕組みづくりを行います。

② GX、DXによる課題解決の促進

- ・ ハヶ岳の豊かな自然環境を、茅野市の魅力としてこれからも活かしていくため、また、世界共通の目標であるゼロカーボンの実現に寄与するため、二酸化炭素の吸収源でもある茅野市の恵まれた森林資源を守り、育みながら、引き続き脱炭素社会に向けたGXの取組を進めます。
- ・ 便利で暮らしやすいまちを実現するため、また、地域の事務負担などの軽減、行政内部の仕事や行政サービスの効率化を図るため、積極的にデジタル技術の導入を検討します。特に、省力化や合理化が必要な部分へのデジタル技術の導入にあたっては、負担が軽減された人の力を、人でなければ担うことが出来ない役割に振り向けることを前提とします。
- ・ GX、DXともに、「交流拠点CHINO」の構築への寄与を見据えながら、官民連携の枠組みにより取組を推進します。

③ 行財政改革の推進と財政の健全化

- ・ 茅野市の財政は、これまで幾度となく危機を乗り越えてきましたが、超少子化、超高齢化を受け、現在の状況はこれまでにない危機的かつ深刻な状況です。そのため、令和7年度からの5年間においては、令和7年度予算編成方針の目標をベースに、当初予算における基金繰入額を3億円から10億円未満に抑えるとともに、不要不急な予算執行を控えることで、決算時における基金取崩しを予算額の半額程度に抑えるようにします。
- ・ 行財政改革プラン2023に掲げた優先改革実行項目による短期的な取組と中長期的な取組、組織と職員定数の見直しなど、経常経費の削減を主目的とした抜本的な行財政構造改革に取り組みます。
- ・ 上記の取組を通じて、収支均衡予算を実現し、基金を積み戻すことを目指します。